

建国記念日に遭遇

日本には「旗日」という言葉がある。国の定めた祝日に国旗を掲げることを意味している。私が子供の頃には各家の玄関に、日の丸の旗が掲げられ祭日を祝う習慣があった。しかし時代と共に国旗を掲げる家はほとんど見られなくなってしまった。今の若者には「旗日」の言葉すら知らない。残念な気持ちではある。

2011年8月9日にシンガポールを訪問した。街中至る所に国旗が掲げられている。車中から見える高層住宅の全家庭に近い窓から国旗がはためいていた。この日はシンガポール建国46周年の記念日にあたる。シンガポールの人達にとって国を愛する心、国を誇りに思う気持ちが旗の数を見ただけでも伝わってくる。



建国記念のこの日は毎年政府主導で一大イベントが開催される。各種の軍事的パフォーマンスの他、歌謡やダンスの華やかな演技が繰り広げられる。その中にシンガポール創価学会の人達(500人)による、華麗な演技(今回で26回目)が一際人気を得ていた。ナザン大統領、リー・シェンロン首相はじめ政府首脳など各界の来賓が出席し、賞賛の喝采が贈られた。日本発祥の創価学会が遠くシンガポールで市民権を得ている姿に、日本人としてある種の誇りを感じた。

そして恒例の花火大会。真夏の夜空に(一年中真夏!)打ち上げられる華麗で迫力ある音は、日本と全く同じであった。「Happy Birthday! 46 years old」(言葉や文化や人種の違いを乗り越えて、これからも民主的に一つになって頑張っていく)そのような声が聞こえてくる。

撮影 2011年夏

